



前田建設

MAEDA



MAEDA CSR REPORT

CSR報告書2017

データブック

MAEDA CSR REPORT

CSR報告書2017

データブック



目次

- 2 MAEDAのコミュニケーションツール
- 3 MAEDAの2016年度におけるCSRの取り組みと主なKPI、ISO26000の関係性
- 5 MAEDAの「CSRの4本柱」に関する活動データ報告
- 5 ●「法令等遵守(コンプライアンス)」
重点項目: 企業統治、法令遵守、リスク管理、ダイバーシティ推進
- 7 ●「優れた建造物・建設サービスの提供」
重点項目: 安全な施工、品質の確保、技術開発、CSR調達
- 9 ●「環境保全への取り組み」
重点項目: 環境経営推進、地球温暖化防止、循環型社会構築、生物多様性保全
- 16 グループ会社の環境データ一覧
- 17 ●「企業市民としての社会・地域貢献活動」
重点項目: 社会・地域とのコミュニケーション、社員の環境意識向上
- 18 「地球への配当」プロジェクトと拠出金額、MAEDA SIIの投資先について、外部表彰

MAEDAのコミュニケーションツール

MAEDAのコミュニケーションツールの構成

MAEDA CSR REPORT 2017



MAEDAおよびグループ会社が行っているCSR活動を中心に紹介しています。2部構成になっており、パート1では事業活動などを通して当社の考えや戦略を述べ、パート2では当社の「CSRの4本柱」を軸に2016年度の取り組み実績を報告しています。

MAEDA CSR REPORT 2017 データブック



MAEDA CSR REPORT 2017で報告したCSR活動の補足およびKPIについて、経年変化と目標値を示し、その状況をお伝えしています。

MAEDA ANNUAL REPORT



主に海外投資家を対象とし、財務情報、国内外工事情報、CSR活動などの実績とともに、当社の今後の事業戦略についても報告しています。

MAEDA Webサイト

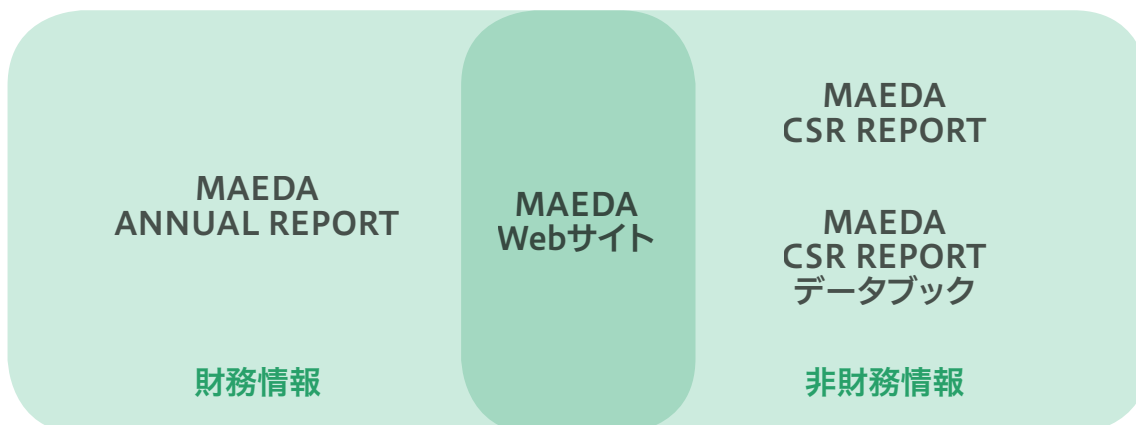


MAEDAの財務情報については「IR情報」サイトにおいて情報公開し、非財務情報については「CSR」サイトにおいて報告しています。

IR情報 : <http://www.maeda.co.jp/ir/index.html>

CSR : <http://www.maeda.co.jp/csr/index.html>

MAEDA コミュニケーションツールの主な位置づけと関係性



MAEDAの2016年度におけるCSRの取り組みと主なKPI

MAEDAの「CSRの4本柱」	「CSRの4本柱」に属している重点項目	CSR報告書2017 報告項目		報告項目における主な取り組み
		重点項目に対する活動項目	CSR報告書2017 対応ページ	
法令等遵守 (コンプライアンス)	企業統治 法令遵守 リスク管理 ダイバーシティ推進	企業統治	P. 27	理念等の浸透・定着
		法令遵守	P. 28	CSR・コンプライアンス
		リスク管理	P. 28	BCPへの取り組み 情報安全
		ダイバーシティ推進	P. 29～30	人権・人事・労務
優れた建造物・ 建設サービスの提供	安全な施工 品質の確保 技術開発 CSR調達	安全・品質に関する取り組み	P. 31～32	現場における安全への取り組み
		技術開発に関する取り組み	P. 33～34	環境技術の売上への寄与、普及・展開
		調達に関する取り組み	P. 35～36	CSR・グリーン調達の推進
環境保全への 取り組み	環境経営推進 地球温暖化防止 循環型社会構築 生物多様性保全	環境経営推進に関する取り組み	P. 37～38	環境教育の充実 環境に関するしくみの充実
		地球温暖化防止に関する取り組み	P. 39～40	地球温暖化防止に向けた取り組み
		循環型社会構築に関する取り組み	P. 41～42	循環型社会構築に向けた取り組み
		生物多様性保全に関する取り組み	P. 43～44	生物多様性の取り組み
企業市民としての 社会・地域貢献活動	社会・地域との コミュニケーション 社員の環境意識向上	社会・地域とのコミュニケーション	P. 45～49	地域とのコミュニケーション 企業ボランティアの実施
		MAEDAエコポイント制度「Me-pon」の活用	P. 49～50	エコアクションの拡大

当社のCSRの指標である「CSRの4本柱」を軸に、それぞれの軸で捉えている社会的課題、CSR報告書2017の報告項目、各項目で取り組んだ内容とそのKPIおよびISO26000との関係性をそれぞれの関係性を以下の一覧表に示します。

取り組みに関するKPI	KPIの達成度指標	データブック 対応ページ	ISO26000 7つの中核課題							
			組織統治	人事	労働慣行	環境	公正な事業慣行	消費者課題	および開発 コミュニティ参画	
経営規範に関する教育の受講	新入社員受講者率	P. 5								
CSR戦略会議の実施	実施回数									
CSR・コンプライアンスレターの発行	発行回数									
BCP訓練における安否確認メールへの返信	返信率									
情報安全キャラバン参加	参加者数	P. 6								
人権問題に関する教育	参加率		●	●	●		●			
障がい者雇用	雇用率									
定年者再雇用	再雇用率									
育児休業	取得者数									
配偶者の出産休暇	取得者数									
有給休暇取得	取得率									
ボランティア休暇取得	取得率									
安全成績	度数率	P. 7								
	強度率									
選定環境技術の工事受注・売上への貢献	件数(土木)	P. 7~8					●	●	●	
	件数(建築)									
施工段階におけるグリーン調達品(指定11品目)の調達	調達率	P. 7~8								
オフィスにおける文具類グリーン調達品の調達	調達率									
環境意識の向上を目的とした集合教育の実施	実施回数	P. 9								
eco検定の取得	取得者率									
環境保全を目的とした資金拠出	「地球への配当」拠出額									
グリーンR&Dの採用	採用件数	P. 11								
建築物運用段階におけるCO ₂ 排出削減	推定削減率									
施工段階におけるCO ₂ 排出	排出原単位									
オフィスにおける電力使用量によるCO ₂ 排出	排出量	P. 12								
	排出原単位									
施工段階における廃棄物の排出	排出量	P. 13					●		●	
施工段階のリサイクル(汚泥等除く)	リサイクル率									
施工段階における混合廃棄物排出 (建築の新築工事に限る)	延床面積あたりの原単位(住宅)	P. 14								
	延床面積あたりの原単位(非住宅)									
電子マニフェストの利用	利用率	P. 14								
オフィスにおける一般廃棄物排出	排出量									
	排出原単位(1日1人当たり)									
オフィスにおける水使用	使用原単位(1日1人当たり)									
施工段階における取り組み	取り組み件数	P. 15								
生物多様性をテーマにした技術開発	開発件数									
社会・地域貢献活動の取り組み	取り組み件数	P. 17								
企業ボランティアの実施	実施回数						●			●
社内エコポイント制度(Me-pon)の普及	参加率									
	利用ポイント数									

MAEDAの「CSRの4本柱」

「法令等遵守(コンプライアンス)」

重点項目 企業統治、法令遵守、リスク管理、ダイバーシティ推進

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

企業統治

●理念等の浸透・定着:【KPI】経営規範に関する教育の受講

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
新入社員教育の受講者率	100%	100%	100%	100%	◎	100%

コメント

当社の創業理念・社是を含めた「経営規範」を教育し、浸透させていく必要があります。「経営規範」を定着させることを目的とし、新入社員を対象とした受講者率を指標として考えています。

法令遵守

●CSR・コンプライアンス:【KPI】CSR戦略会議の実施、CSR・コンプライアンスレターの発行

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
CSR戦略会議実施回数	11回	6回	5回	—	—	—
レター発行回数	2回	2回	0回	—	—	—

コメント

コンプライアンスに対する理解、意識の向上は企業のリスクマネジメントにおいて重要であることから、社員への浸透・定着を徹底しています。また、現在CSV経営への移行に伴い、コンプライアンスに関する取り組みを見直し中です。

リスク管理

●BCPへの取り組み:【KPI】BCP訓練における安否確認メールへの返信

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
メール返信率	98%	—	97%	—	—	—

コメント

発生が懸念される東南海地震などを想定し、会社・個人ともに事前対策の徹底を図りました。社員の安否を確認するメールへの返信訓練においては、9割以上の回答となっています。 ※2015年度はBCP訓練を実施しませんでした。

●情報安全:【KPI】情報安全キャラバン参加者

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
参加者数	1,280人	1,540人	—	—	—	—

コメント

2016年度は、キャラバンを実施しませんでした。現在、社内の体制変更や、全社員へのスマートデバイス配布に伴い、新しい情報安全の取り組みを検討中です。

ダイバーシティ推進

●人権・人事・労務：【KPI】人権問題に関する教育

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
参加率	100%	100%	100%	100%	◎	100%

コメント

人権に関する教育については、新入社員、3年次、5年次の研修で行っています。その参加率を指標に、社員への浸透具合を確認しています。

●人権・人事・労務：【KPI】労務① ダイバーシティ関連

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
障がい者雇用率	2.20%	2.06%	1.99%	—	—	—
定年者再雇用率	82.5%	84.8%	88.4%	—	—	—
女性社員数	270人	289人	317人	—	—	—
女性平均勤続年数	12.8年	12.9年	12.5年	—	—	—
女性管理職者数	18人	22人	23人	—	—	—
女性管理職比率	1.01%	1.27%	1.35%	—	—	—

コメント

ダイバーシティの推進をめざし、定年者や障がい者の雇用促進、女性に優しい職場づくりを目指していきます。

●人権・人事・労務：【KPI】労務② ワーク・ライフ・バランス関連

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
育児休業取得者数(女性)	10人	16人	18人	—	—	—
育児休業取得者数(男性)休職を伴う	0人	1人	1人	—	—	—
育児休業取得者数(男性)休職を伴わない	11人	9人	34人	—	—	—
介護休業取得者数	0人	0人	1人	—	—	—
有給休暇取得率(取得日数)	21.7%	22.6%	56.7%	—	—	—
ボランティア休暇取得者数	182人	188人	173人	—	—	—

コメント

有給休暇の計画的な取得に全社を挙げて取り組んだ結果、前年比を大幅に上回る取得率となりました。なお、有給休暇には年次有給休暇の他、就業規則に定める有給の特別休暇を含みます。

●人権・人事・労務：【KPI】人事(雇用・採用)関連

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
全社員数(正社員)	2,821人	2,857人	2,945人	—	—	—
平均年齢	43.8歳	43.9歳	43.8歳	—	—	—
平均勤続年数	18.7年	18.6年	18.4年	—	—	—
新入社員採用人数	94人	114人	114人	—	—	—
建築系	41人	48人	36人	—	—	—
土木系	38人	54人	57人	—	—	—
事務系	15人	12人	21人	—	—	—

MAEDAの「CSRの4本柱」

「優れた建造物・建設サービスの提供」

重点項目 安全な施工、品質の確保、技術開発、CSR調達

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

安全・品質に関する取り組み

●現場における安全への取り組み:【KPI】安全成績

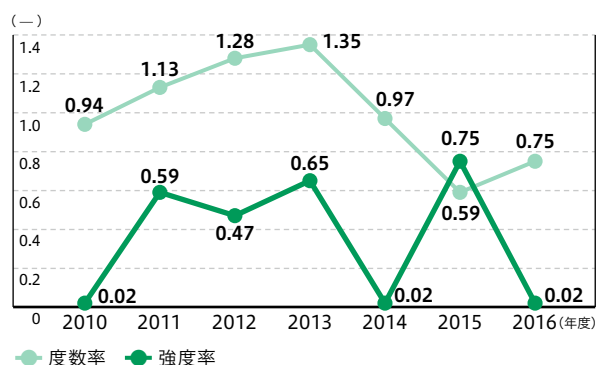
KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
度数率	0.97	0.59	0.75	—	—	—
強度率	0.02	0.75	0.02	—	—	—

度数率: (死傷者数) ÷ (延べ労働時間数) × 1,000,000 強度率: (労働損失日数) ÷ (延べ労働時間数) × 1,000

コメント

安全成績や災害件数の減少を図るため、災害事例の効果的な水平展開、作業手順の管理、重機・車両災害の防止、および経験の浅い社員、作業員への教育に重点を置いて取り組み、安全な職場環境の実現に努めています。

度数率と強度率の経年変化



技術開発に関する取り組み

●環境技術の売上への寄与、普及・展開:【KPI】選定環境技術の工事受注・売上への貢献

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
採用件数(土木)	6件	7件	4件	3件	◎	3件
採用件数(建築)	11件	13件	16件	2件	◎	2件

コメント

2016年度より、「提案件数」と「採択件数」に分け、目標を設定しました。目標値は、採択件数を示しています。

調達に関する取り組み

●グリーン調達の推進:【KPI】施工段階におけるグリーン調達品(指定11品目)の調達、オフィスにおける文具類グリーン調達品の調達

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
施工段階のグリーン調達率	48%	59%	56%	55%以上	◎	55%以上
オフィスのグリーン調達率	73%	77%	70%	80%以上	×	83%以上

※「指定11品目(コンクリート3種、再生鋼材3種、Low-Eガラス、複層ガラス、ノンフロン断熱材、LED照明、EM電線)」

コメント

施工段階の調達率は、母数である通常品のうち、高炉鋼失板の調達量が増加したため調達率は下がりましたが、コンクリートの調達率は上がったため、目標を達成しました。オフィスのグリーン調達率は横ばい状態が続いていますが、目標達成に向けた一層の取り組みを推進します。

●グリーン調達推進:【KPI】施工段階のグリーン調達量(30品目)

KPIの指標		2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
材料 12品目	高炉コンクリート	187,187 m ³	176,178 m ³	167,301 m ³	—	—	—
	フライアッシュコンクリート	9,632 m ³	22,774 m ³	78,551 m ³	—	—	—
	再生コンクリート	0 m ³	430 m ³	0 m ³	—	—	—
	電炉H鋼・鋼矢板	5,690 t	3,386 t	14,267 t	—	—	—
	電炉鉄筋	86,084 t	81,379 t	71,652 t	—	—	—
	高炉スラグ細骨材	—	23,178 t	3,132 t	—	—	—
	建設発生土再利用	700,254 m ³	975,040 m ³	164,737 m ³	—	—	—
	建設汚泥から再生した処理土	38,811 m ³	41,696 m ³	16,304 m ³	—	—	—
	再生骨材等	67,227 t	61,614 t	105,040 t	—	—	—
	再生加熱アス混合物	6,387 t	5,473 t	6,926 t	—	—	—
	代替型枠	46,716 m ²	17,310 m ²	19,590 m ²	—	—	—
	PC材	23,243 m ³	3,113 m ³	32,274 m ³	—	—	—
内・外 装材 7品目	Low-Eガラス	31,630 m ²	9,074 m ²	36,915 m ²	—	—	—
	複層ガラス	28,609 m ²	19,192 m ²	27,609 m ²	—	—	—
	屋上緑化	1,978 m ²	1,339 m ²	5,840 m ²	—	—	—
	壁面緑化	624 m ²	1,185 m ²	1,544 m ²	—	—	—
	再生木質ボード	76,817 m ²	61,468 m ²	372,581 m ²	—	—	—
	間伐材(国産材)	267 m ²	59 m ²	1,648 m ²	—	—	—
	ノンフロン断熱材	540,375 m ²	486,580 m ²	546,156 m ²	—	—	—
設備系 11品目	自動制御ブラインド	151 力所	0 力所	98 力所	—	—	—
	地中熱利用システム	0 kW	0 kW	10 kW	—	—	—
	太陽光発電	12,266 kW	20,060 kW	8,823 kW	—	—	—
	太陽熱利用	0 m ²	0 m ²	6 m ²	—	—	—
	風力発電	20,000 kW	0 kW	4,000 kW	—	—	—
	燃料電池	0 kW	0 kW	1 kW	—	—	—
	LED照明	50,145 台	31,611 台	42,775 台	—	—	—
	EM電線	591,550 m	456,677 m	514,959 m	—	—	—
	節水便器	—	1,175 組	1,599 組	—	—	—
	吸収冷温水機	—	4 基	—	—	—	—
	ガスヒートポンプ	—	164 台	348 台	—	—	—

コメント

グリーン調達に関しては、2015年度から集計品目を28品目から30品目に増やしました。建築物の省エネに貢献する設備系の品目を増やしています。2017年度はグリーン調達品目を増やし、ZEB等の建造物の製品対策を強化します。

「環境保全への取り組み」

重点項目 環境経営推進、地球温暖化防止、循環型社会構築、生物多様性保全

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

環境経営推進に関する取り組み

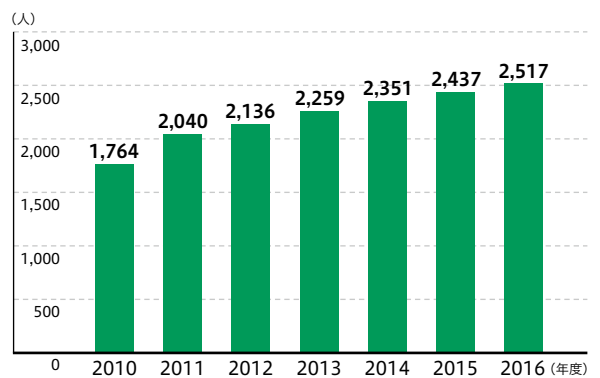
●環境教育の充実:【KPI】環境意識の向上を目的とした集合教育の実施、eco検定の取得

KPIの指標	2014年度実績値	2015年度実績値	2016年度実績値	2016年度目標値	2016年度達成度	2017年度目標値
集合教育の実施回数	6回	7回	7回	7回/年以上	◎	9回/年以上
eco検定取得者率	83%	83%	86%	85%以上	◎	90%

対象としている環境に関する集合教育

教育名称	実施内容
①新入社員導入教育	当社規範類、CSR・コンプライアンスの基礎など
②1年次集合教育	CSR・環境経営の基礎
③1年次支店環境教育	廃棄物処理の基礎、現地視察など
④3年次職種別集合教育	CSR・環境経営、コンプライアンスなど
⑤4年次集合教育	EMS規程類の教育、運用方法など
⑥5年次職種別集合教育	CSR・環境経営の詳細、事例説明など
⑦5年次職種別集合教育	環境法令全般

eco検定合格者の推移(累計)



コメント

当社は、若手職員を対象として、CSR・コンプライアンスやMAEDAの環境経営など、環境に対する理解度向上に努めています。環境教育の機会を充実させ、浸透・定着できるように、毎年教育プログラムを見直しています。2016年度からは、昨年度の3年次職員を対象とする廃棄物処理法等の教育に加え、5年次職員を対象に、環境法令全般、環境管理といった実務に直結した教育を実施しています。また環境に対する基礎知識の拡充を目的として、eco検定の取得推進をしており、約86% (2,517人、2017年3月現在)の職員が有資格者となっています。

●環境に関するしくみの充実:【KPI】環境保全を目的とした資金拠出、グリーンR&Dの採用

KPIの指標	2014年度実績値	2015年度実績値	2016年度実績値	2016年度目標値	2016年度達成度	2017年度目標値
「地球への配当」拠出額	76,070(千円)	114,954(千円)	200,022(千円)	—	—	—
グリーンR&D採用件数	4件	0件	0件	—	—	—

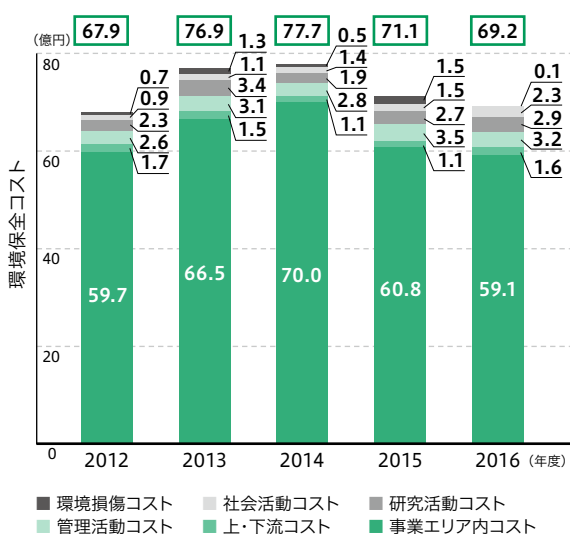
コメント

当社では、連結純利益の2%を上限に「地球への配当」として拠出し、地球環境保全活動を推進しています。単に資金を拠出するだけでなく、長期的な視点に立って支援できるプロジェクト、また社員やその家族が参加できる活動などの条件を満足していることを確認した上で、NPOなどに対して支援し、協働しながら環境活動を行っています。2013年度からは、「MAEDAグリーンR&D」として、未来の地球環境保全につながる可能性のある研究開発や事業についても資金を拠出しています。2016年度は新規採用の研究テーマはありませんでした(昨年度からの継続支援課題は2件)。

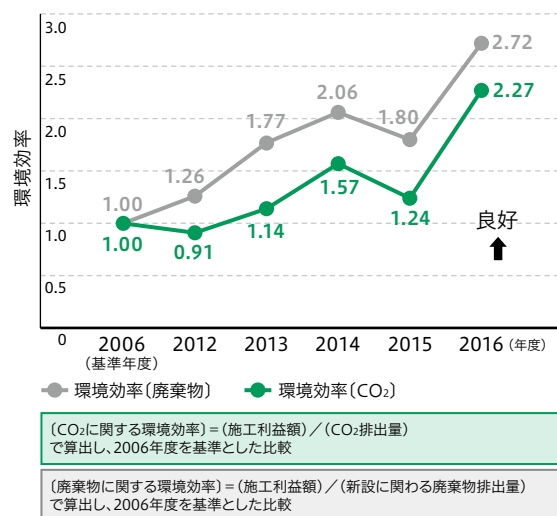
●環境保全コストの集計：【KPI】環境保全コスト

環境保全コスト区分		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		
大区分	中区分	費用 (億円)	(構成比) (%)	費用 (億円)	(構成比) (%)	費用 (億円)	(構成比) (%)	費用 (億円)	(構成比) (%)	費用 (億円)	(構成比) (%)	
事業エリア内コスト	公害防止コスト	大気汚染防止	3.9	(5.7)	7.0	(9.1)	3.6	(4.6)	6.6	(9.3)	3.6	(5.1)
		水質汚濁防止	4.4	(6.5)	8.8	(11.4)	6.8	(8.8)	6.4	(9.0)	6.1	(8.8)
		土壌、地下水汚染防止	5.3	(7.8)	0.1	(0.1)	1.5	(1.9)	0.1	(0.1)	0.5	(0.8)
		騒音、振動防止	3.2	(4.7)	5.8	(7.6)	7.0	(9.0)	5.5	(7.7)	2.9	(4.1)
		地盤沈下防止	0.1	(0.2)	0.2	(0.3)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)
		その他公害防止	0.2	(0.3)	0.7	(0.9)	0.1	(0.2)	0.3	(0.5)	3.2	(4.7)
		小計	17.1	(25.2)	22.6	(29.4)	19.0	(24.5)	18.9	(26.6)	16.3	(23.5)
	地球環境保全コスト	温暖化防止・省エネルギー	0.2	(0.3)	2.4	(3.1)	0.4	(0.5)	0.2	(0.2)	0.4	(0.6)
		オゾン層破壊防止、その他	0.8	(1.2)	0.0	0.0	4.1	(5.3)	0.1	(0.2)	0.6	(0.9)
		小計	1.0	(1.5)	2.4	(3.1)	4.5	(5.8)	0.3	(0.4)	1.0	(1.5)
	資源循環コスト	建設副産物減量化、リサイクル	5.6	(8.2)	2.7	(3.5)	8.6	(11.1)	2.6	(3.7)	1.4	(1.9)
		節水、雨水利用等コスト	0.1	(0.1)	0.1	(0.1)	0.4	(0.5)	0.1	(0.1)	0.4	(0.7)
		廃棄物処理費	35.9	(53.0)	38.7	(50.4)	37.5	(48.1)	38.9	(54.7)	40.0	(57.8)
	小計	41.6	(61.3)	41.5	(54.0)	46.5	(59.7)	41.6	(58.5)	41.8	(60.4)	
	事業エリア内コスト計		59.7	(88.0)	66.5	(86.5)	70.0	(90.0)	60.8	(85.5)	59.1	(85.4)
上・下流コスト	グリーン購入のためのコスト	0.6	(0.9)	0.5	(0.7)	0.2	(0.3)	0.1	(0.2)	0.4	(0.5)	
	環境配慮設計コスト	1.1	(1.6)	1.0	(1.3)	0.9	(1.1)	1.0	(1.4)	1.2	(1.8)	
	小計	1.7	(2.5)	1.5	(2.0)	1.1	(1.4)	1.1	(1.6)	1.6	(2.3)	
管理活動コスト	環境教育費用	0.3	(0.4)	0.4	(0.5)	0.5	(0.6)	0.4	(0.5)	0.5	(0.7)	
	EMS運用コスト	0.9	(1.3)	0.9	(1.1)	0.9	(1.2)	1.0	(1.4)	1.0	(1.4)	
	環境負荷の監視・測定	0.6	(0.9)	0.9	(1.2)	0.7	(0.9)	1.5	(2.1)	0.9	(1.3)	
	環境関連部門コスト	0.8	(1.2)	0.9	(1.2)	0.7	(0.9)	0.6	(0.8)	0.8	(1.2)	
	小計	2.6	(3.8)	3.1	(4.0)	2.8	(3.6)	3.5	(4.8)	3.2	(4.6)	
研究活動コスト	小計	2.3	(3.4)	3.4	(4.5)	1.9	(2.5)	2.7	(3.9)	2.9	(4.2)	
社会活動コスト	現場周辺美化対策コスト	0.1	(0.1)	0.1	(0.1)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.9	(1.3)	
	地域支援・環境関連基金・寄付等	0.4	(0.6)	0.7	(0.9)	1.0	(1.3)	1.2	(1.7)	1.1	(1.6)	
	情報公開・環境広告コスト	0.4	(0.6)	0.3	(0.4)	0.4	(0.6)	0.3	(0.4)	0.3	(0.5)	
	小計	0.9	(1.3)	1.1	(1.4)	1.4	(1.9)	1.5	(2.1)	2.3	(3.4)	
環境損傷コスト	土壌汚染、自然破壊等の修復コスト	0.6	(0.9)	1.3	(1.6)	0.5	(0.6)	1.5	(2.1)	0.1	(0.1)	
	環境の損傷に対応する引当金	0.1	(0.1)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	
	環境保全に関わる和解金、補償金	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	
	小計	0.7	(1.0)	1.3	(1.6)	0.5	(0.6)	1.5	(2.1)	0.1	(0.1)	
環境保全コスト	合計	67.9	(100.0)	76.9	(100.0)	77.7	(100.0)	71.1	(100.0)	69.2	(100.0)	

環境保全コスト



環境効率



地球温暖化防止に関する取り組み

●地球温暖化防止に向けた取り組み:【KPI】設計段階:建築物運用段階におけるCO₂排出削減

KPIの指標	2014年度実績値	2015年度実績値	2016年度実績値	2016年度目標値	2016年度達成度	2017年度目標値
CO ₂ 推定削減率	31%	28%	15%	—	—	—
CO ₂ 推定削減量	2,884t-CO ₂	1,678t-CO ₂	955t-CO ₂	—	—	—

コメント

省エネ法で省エネ措置の届出が義務づけられている建築物の運用段階のCO₂排出量抑制のため、設計段階で空調設備や照明設備等の建築設備の省エネ化を図り、消費される一次エネルギーの消費量削減に努めています。2015年度までは大型物流施設等があり大きな数値となっていました。2016年度の対象物件(設計物件)では一次エネルギーの削減量、推定されるCO₂排出削減量ともに減少しました。*推定されるCO₂排出削減量の算出は、日本建設業連合会の「省エネルギー計画書&CASBEE評価シート」による

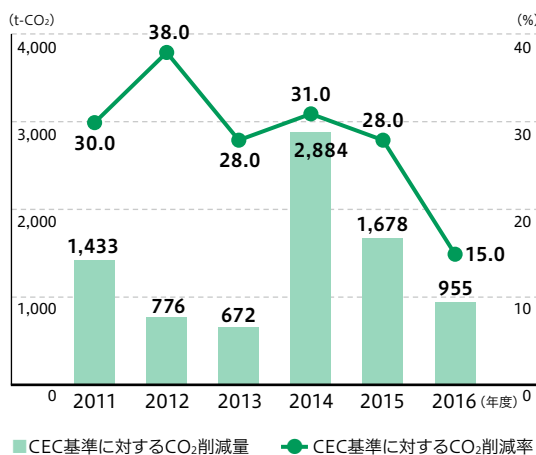
●地球温暖化防止に向けた取り組み:【KPI】施工段階:施工段階におけるCO₂排出

KPIの指標	2014年度実績値	2015年度実績値	2016年度実績値	2016年度目標値	2016年度達成度	2017年度目標値
CO ₂ 排出原単位(全社)	26.7 t-CO ₂ /億円	33.9 t-CO ₂ /億円	26.5 t-CO ₂ /億円	30.3 t-CO ₂ /億円以下	◎	23.3 t-CO ₂ /億円以下
CO ₂ 排出原単位(土木)	53.5 t-CO ₂ /億円	70.9 t-CO ₂ /億円	48.9 t-CO ₂ /億円	60.9 t-CO ₂ /億円以下	◎	43.7 t-CO ₂ /億円以下
CO ₂ 排出原単位(建築)	11.1 t-CO ₂ /億円	11.6 t-CO ₂ /億円	11.5 t-CO ₂ /億円	10.9 t-CO ₂ /億円以下	△	10.7 t-CO ₂ /億円以下
CO ₂ 排出量	86 千t-CO ₂	112 千t-CO ₂	89 千t-CO ₂	—	—	—

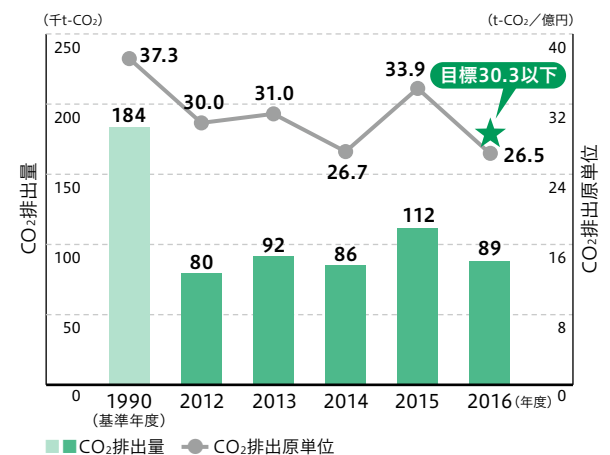
コメント

2016年度の施工段階におけるCO₂排出量は、複数の大規模トンネル現場等における掘削工が完了したこと等により、前年度比20.2%減の89千t-CO₂(当社の定める基準年度:1990年度比51.4%削減)となりました。またCO₂排出原単位も、前述の理由により26.5 t-CO₂/億円と前年度より減少し、(当社の定める基準年度:1990年度比29%削減)となりました。

建築物運用段階におけるCO₂発生抑制に関する推移



CO₂(施工活動)の推移



2016年度の作業所における省燃費運転活動実施状況

対象台数	アイドリングストップ	定期検査証保有	省燃費運転講習(座学)	省燃費運転講習(実地)
土木(167,490台)	94.5%(678t-CO ₂)	99.3%(900t-CO ₂)	90.0%(600t-CO ₂)	88.9%(1,501t-CO ₂)
建築(135,452台)	95.1%(438t-CO ₂)	98.3%(486t-CO ₂)	92.0%(324t-CO ₂)	91.6%(810t-CO ₂)
全社(302,942台)	94.7%(1,116t-CO ₂)	98.8%(1,386t-CO ₂)	90.8%(924t-CO ₂)	90.0%(2,310t-CO ₂)

※()内はCO₂推定削減量

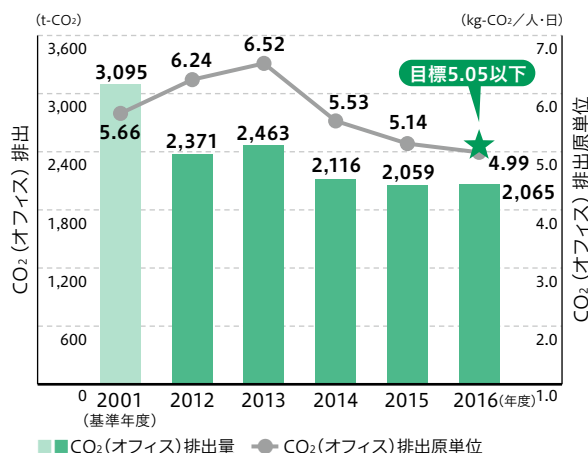
●地球温暖化防止に向けた取り組み：【KPI】オフィス活動：オフィスにおける電力使用によるCO₂排出

KPIの指標	2014年度実績値	2015年度実績値	2016年度実績値	2016年度目標値	2016年度達成度	2017年度目標値
CO ₂ 排出原単位	5.53 kg-CO ₂ /人・日	5.14 kg-CO ₂ /人・日	4.99 kg-CO ₂ /人・日	5.05 kg-CO ₂ /人・日以下	◎	4.95 kg-CO ₂ /人・日以下
CO ₂ 排出量	2,116 t-CO ₂	2,059 t-CO ₂	2,065 t-CO ₂	2,020 t-CO ₂ 以下	○	1,980 t-CO ₂ 以下

コメント

オフィスでは2016年度、CO₂排出量、排出原単位ともに増加となり、目標を達成できませんでした。2013年度以降、排出量自体は継続的に減少しており、省エネ活動の取り組み効果が現れていると思われます。引き続きオフィスにおけるCO₂排出量の削減活動を推進します。

CO₂(オフィス活動)の推移



●地球温暖化防止に向けた取り組み：【KPI】事業活動の上下流において排出される間接的な排出量(スコープ3)

カテゴリー	算定範囲	2014年度実績値 (t-CO ₂)	2015年度実績値 (t-CO ₂)	2016年度実績値 (t-CO ₂)
1. 購入した製品・サービス	当社が購入した製品のうち、購入金額を把握できている製品の排出量	743,099	482,630	685,979
2. 資本財	購入または取得した資本財(有形固定資産、土地を除く)の建設・製造および輸送から発生する排出量	34,046	4,726	15,171
3. スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	自社が購入した燃料の上流側の排出量	5,192	6,647	4,636
4. 輸送、配送(上流)	当社が購入した建造物の躯体関係(生コン、鉄筋など)の物流に関する排出量	5,086	2,737	5,195
5. 事業から出る廃棄物	自社の事業活動から発生する廃棄物(有償の物を除く)の自社以外での「廃棄」と「処理」に係る排出量および廃棄物の輸送に係る排出量	32,589	29,489	16,555
6. 出張	業務における従業員の移動(出張など)に使用する交通機関の燃料・電力消費から排出される排出量	307	371	383
7. 雇用者の通勤	事業所への通勤時に使用する交通機関の燃料・電力消費から排出される排出量	1,350	1,367	1,409
11. 販売した製品の使用	自社施工した建造物の使用に伴う排出量のうち、「事務所ビル」「卸・小売業」「飲食店」「学校」「ホテル・旅館」「病院」「集合住宅など」の建築物に係る排出量 ※建物の供用期間(60年と設定)における排出量としたことから、(年間排出量)×(供用期間)で算定	12,043,223	7,294,378	4,924,891
12. 販売した製品の廃棄	自社施工した建造物の「廃棄」と「処理」に係る排出量 ※具体的には、自社購入した製品のうち、「コンクリート」「鉄筋」「鉄骨」「PC」から、それぞれの廃棄物量を差し引いた物量を計算し、これを「販売した製品」と仮定して将来「廃棄」「処理」される量と想定	51,982	36,252	44,612
13. リース資産(下流)	自社が賃貸事業者として所有し、他者に賃貸しているリース資産のうち、建物の運用に伴う排出量	6,692	5,218	5,218
合計	—	12,923,566	7,863,815	5,704,049

※カテゴリー8「リース資産(上流)」、9「輸送、配送(下流)」、10「販売した製品の加工」、14「フランチャイズ」、15「投資」は対象外といたしました。

※環境省が開催した、環境情報開示システム試行事業に参加し、スコープ3算定支援を受け、算定しました。

※実績値は、環境省「環境情報開示基盤整備に向けたサプライチェーン温室効果ガス排出量算定支援」事業を利用したスコープ3の試算値です。

循環型社会構築に関する取り組み

●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:施工段階における廃棄物の排出

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
廃棄物排出量(全社)	566kt	586kt	560kt	—	—	—
廃棄物排出量(新設のみ)	353kt	416kt	319kt	—	—	—
廃棄物排出量(解体のみ)	214kt	170kt	242kt	—	—	—
廃棄物最終処分量	19kt	30kt	26kt	—	—	—

コメント

【廃棄物排出量】

当社が排出した全廃棄物排出量は、560kt(新築:319kt、解体:241kt)となりました。アスコンから、汚泥および木くずの排出量が減少したことにより、廃棄物排出量は前年度比4.4%減となりました。

●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:施工段階のリサイクル(汚泥等除く※)

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
リサイクル率(汚泥等除く) (全社)	96.6%	97.0%	97.0%	98.0%以上	○	98.0%以上
リサイクル率(汚泥等除く) (土木)	98.3%	98.6%	97.0%	99.0%以上	○	99.0%以上
リサイクル率(汚泥等除く) (建築)	96.2%	94.9%	97.0%	95.2%以上	◎	97.0%以上

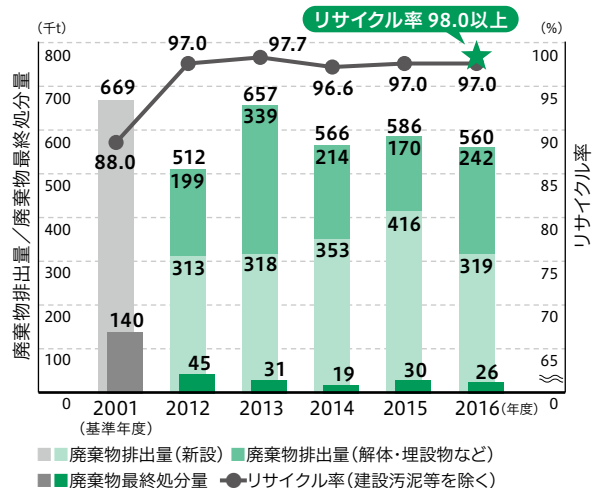
※対象年度に排出した廃棄物のうち、「建設汚泥」、「石綿含有廃棄物」、「特別管理型廃棄物」を対象外としている。

【リサイクル率(%)】:(排出量-最終処分量)/排出量×100

コメント

「リサイクル率(汚泥等除く)」の目標値は、中期環境計画実施期間である2018年度まで一定として設定しています。2016年度は目標未達でしたが、建築・土木ともに90%後半で推移しており、ある程度の段階まで取り組みが進んでいますが、まだリサイクル率の低い作業所の取り組みを進める余地があると考えられます。引き続き廃棄物最終処分量の削減に努めます。

廃棄物(施工活動)推移およびリサイクル率



●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:施工段階における混合廃棄物排出(建築の新築工事に限る)

KPIの指標	2014年度実績値	2015年度実績値	2016年度実績値	2016年度目標値	2016年度達成度	2017年度目標値
住宅系混廃原単位(延床面積あたり)	10.1kg/m ²	14.1kg/m ²	11.2kg/m ²	12.7kg/m ² 以下	◎	7.5kg/m ² 以下
非住宅系混廃原単位(延床面積あたり)	5.9kg/m ²	9.0kg/m ²	6.8kg/m ²	8.1kg/m ² 以下	◎	6.3kg/m ² 以下

コメント

過去の実績を参考に、2015年度から目標値を設定しています。対象年度の完成工事を集計対象としているため、その年度の用途件数に左右される可能性はありますが、混合廃棄物排出量減少を目指し、取り組んでいきます。

●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】施工段階:電子マニフェストの利用

KPIの指標	2014年度実績値	2015年度実績値	2016年度実績値	2016年度目標値	2016年度達成度	2017年度目標値
電子マニフェスト利用率	80%	81%	85%	85%以上	◎	90%以上

コメント

当社では、廃棄物の適正管理推進を目的に、電子マニフェストの普及を推進しています。地域により利用率が大きく異なっており、2016年度時点においては、中期目標である「80%以上」を達成することができませんでした。今後は電子マニフェスト利用率が低い地域における利用率を図り、一層の廃棄物の適正管理に努めます。

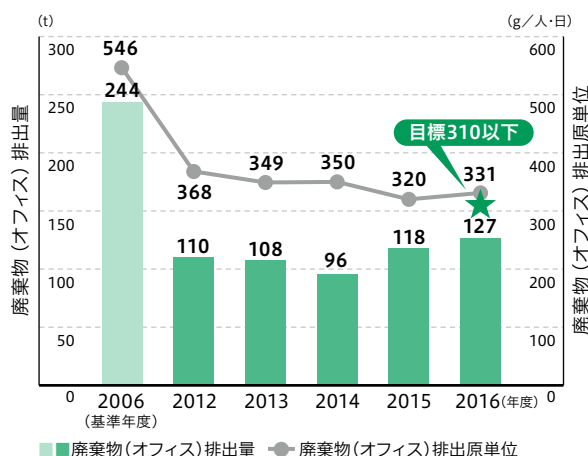
●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】オフィス活動:オフィスにおける一般廃棄物排出

KPIの指標	2014年度実績値	2015年度実績値	2016年度実績値	2016年度目標値	2016年度達成度	2017年度目標値
廃棄物排出原単位(1日1人あたり)	350g/人・日	320g/人・日	331g/人・日	310g/人・日以下	△	305g/人・日以下
廃棄物排出量	96t	118t	127t	110t以下	×	105t以下

コメント

オフィスの廃棄物目標は、排出量、排出原単位ともに、中期環境計画実施期間である2018年度まで一定として設定しました。2016年度は排出原単位が目標を達成しました。引き続き削減に努めてまいります。

廃棄物(オフィス活動)推移



●循環型社会構築に向けた取り組み:【KPI】オフィス活動:オフィスの水使用

KPIの指標	2014年度実績値	2015年度実績値	2016年度実績値	2016年度目標値	2016年度達成度	2017年度目標値
水使用原単位(1日1人あたり)	63L/人・日	55L/人・日	56L/人・日	50L/人・日以下	×	45L/人・日以下

コメント

2016年度のオフィスの水使用量の削減については、目標達成できませんでした。2017年度以降は、実績推移を確認しながら目標を達成できるように活動を充実させていきます。

生物多様性保全に関する取り組み

●生物多様性の取り組み:【KPI】施工段階における取り組み

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
環境取り組み件数	44件	13件	10件	20件以上	×	(計画中)

コメント

2013年4月に「MAEDA生物多様性ガイドライン」を策定し、全支店において生物多様性の教育を実施しました。現場での取り組み事例はデータベースに登録され、職員の生物多様性に関する知識・意識の向上を目的に全社へ水平展開にされています。また、2014年度より「環境版MAEDAルール」という現場における社内ルールにおいて、生物多様性の指標を追加しています。

●生物多様性の取り組み:【KPI】生物多様性をテーマにした技術開発

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
開発テーマ研究の件数	6件	6件	1件	1件以上	◎	1件以上

コメント

生物多様性への取り組みは、現場での取り組みを充実させるとともに、現場や設計に活かせる技術開発にも注力しています。これは、「MAEDA生物多様性ガイドライン」に示されている「MAEDA 6つの大目標」の一つに掲げられています。今後も引き続き、生物多様性保全のための研究・技術開発を積極的に推進し、またこの技術を顧客や社会に提案していきます。

グループ会社の環境データ一覧

KPIの指標			2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値
(株)ジェイシティー	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	2,002	2,046	2,053
	廃棄物排出量	t	117	84	2,897
	水使用量	m ³	40,977	37,192	38,951
フジミ工研(株)	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,934	1,617	844
	廃棄物排出量	t	1,871	2,042	1,953
	水使用量	m ³	25,078	27,271	23,268
(株)JM	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	248	243	216
	廃棄物排出量	t	—	—	—
	水使用量	m ³	—	—	—
(株)ミヤマ工業	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	33	26	23
	廃棄物排出量	t	1	1	1
	水使用量	m ³	155	424	379
(株)エフビーエス	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	55	61	62
	廃棄物排出量	t	—	—	—
	水使用量	m ³	639	641	694
光が丘興産(株) (旧正友地所を含む)	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	472	543	426
	廃棄物排出量	t	0	10	8
	水使用量	m ³	11,766	15,379	17,077
(株)ウィーゴカントリー倶楽部	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	350	337	190
	廃棄物排出量	t	23	12	6
	水使用量	m ³	11,730	11,010	10,820
総計	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	5,094	4,873	3,814
	廃棄物排出量	t	2,012	2,149	4,865
	水使用量	m ³	90,345	91,917	91,189

※環境データについて、集計が困難な場合などは、実績値を—としている。

コメント

MAEDAグループは、建設関連の事業だけでなく、多種多様な業種から成り立っています。全国展開している事業もあれば、地域に根差して活動している会社もあります。今回、データブックに掲載している環境数値は、CO₂排出量、廃棄物排出量、水使用量の主要3項目に絞っています。多種多様な事業形態のため、取得不可能なケースや限定されるケースがありますが、各会社が取得できる範囲を明確にして、数値を集計しています。今後、削減に向けた活動を充実させ、グループ全体の環境負荷低減に努めていきます。(正友地所(株)は2016年7月より光が丘興産(株)と合併し、同社不動産部となりました。)

「企業市民としての社会・地域貢献活動」

重点項目 社会・地域とのコミュニケーション、社員の環境意識向上

◎:100%達成 ○:95%以上達成 △:90%以上達成 ×:未達成

社会・地域とのコミュニケーション

●地域とのコミュニケーション:【KPI】社会・地域貢献活動の取り組み

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
取り組み件数	749件	617件	670件	—	—	—

コメント

各支店や営業所、現場における社会貢献活動の推進を目的として、取り組みのデータベース登録を行っています。また、支店からの推薦とその取り組み内容から、年2回、表彰を行っています。目標値は設定していませんが、全社で積極的に取り組んでいます。

●企業ボランティアの実施:【KPI】企業ボランティアの実施

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
実施回数	9回	6回	4回	—	×	(計画中)

コメント

震災ボランティアについては、2011年6月から継続して実施しています。その間、ボランティアの内容についても少しずつ変化してきています。

MAEDAエコポイント制度「Me-pon」の活用

●エコアクションの拡大:【KPI】社内エコポイント制度「Me-pon」の普及

KPIの指標	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値	2016年度 目標値	2016年度 達成度	2017年度 目標値
参加者率	22%	19%	34%	—	—	—
参加者数	860人	734人	1,768人	850 人/年以上	◎	1,050 人/年以上
利用ポイント数	494,490 P/年	355,390 P/年	395,760 P/年	800,000 P/年以上	×	12,000,00 P/年以上
累計の取得ポイント数	3,508,060P	3,786,763P	4,154,486P	—	—	—
累計の交換ポイント数	1,690,415P	2,045,805P	2,441,565P	—	—	—
登録者数(社員)	3,288人	3,258人	1,768人	—	—	—
登録者数(家族)	908人	911人	※	—	—	—

コメント

2010年度から運用されている当社独自のMAEDAエコポイント制度「Me-pon」は、個人の活動を推進するとともに、環境に対する意識向上を目的としています。2013年度から具体的な目標を掲げて企画・運営するために、実運用者数の増加とポイントの利用促進を管理項目として、「Me-pon」の普及に努めています。2016年度、さらなる活性化に向けシステムの見直し、リニューアルを実施した結果、目標を大きく上回り、1,768名(対象社員3,522名中)が参加しました。参加者率は連結の社員数に対する参加者数の割合です。 ※システム改変に伴い、2016年度の家族の参加者数は算定中です。

2016年度「地球への配当」プロジェクトと拠出金額

(社会的課題への支援を含む)

カテゴリー	拠出項目	拠出額(円)	
MAEDAの森	MAEDAの森 佐久 森林整備活動	3,646,356	8,435,276
	MAEDAの森 ふくい 森林整備活動	2,416,113	
	MAEDAの森 新入社員森林整備活動	2,372,807	
エコシステム	霧多布ナショナルトラストへの支援	910,000	2,151,153
	生物多様性アクション大賞への支援	1,000,000	
	竹富島 ツマベニチョウ保護活動への支援	241,153	
エコスクール	海の森プロジェクトへの協賛	200,000	200,000
エコエイド	オイスカ タイ子供の森計画への支援	1,550,000	2,475,800
	ベトナム森林復旧プロジェクトへの支援	910,800	
	日本ユニセフ マダガスカル水と衛生募金	15,000	
エコエンジェル	グリーン電力証書の購入	4,144,000	10,333,925
	NPO・NGO法人への環境活動支援・調査に対する寄付	1,189,275	
	経団連自然保護協議会への寄付	2,000,000	
	環境関連図書点字化支援寄付	1,000,000	
	外濠水辺再生協議会会費	200,000	
	障がい者の自立支援活動に対する寄付	5,800	
	発展途上国の子供たちの支援活動に対する寄付	100,000	
	先進医療、心と体の健康への貢献に対する寄付金	1,553,650	
防災・減災・安全に関する研究や活動に関する寄付金	141,200		
グリーンR&D	地球環境・社会的課題解決のための技術開発支援(2件)	6,000,000	6,000,000
MAEDA SII	地球環境・社会的課題解決事業に取り組むベンチャー企業への出資(2件)	165,025,086	165,025,086
エコポイント制度	Me-pon交換商品の購入	5,401,150	5,401,150
合計		200,022,390	

MAEDA SIIの投資先について

地球への配当の3つの制度のひとつ「MAEDA SII」は、様々な社会課題の解決に取り組むベンチャー企業等に対する投資を行う制度です。2015年度の設立以来、多数の企業・団体と接触し、これまで主に下記案件に拠出しています。

投資先	支援する技術開発と、解決を目指す社会課題
マゼランシステムズジャパン株式会社	先進的な自動化・ロボット化によるインフラ技術を開発し、少子高齢化・人口減少といった社会課題の解決に貢献する
CONNEX SYSTEMS 株式会社	最先進の素材技術、電池技術を提供し、社会的エネルギー問題の解決に貢献する
有限会社ナブラ	次世代パワーデバイス関連技術を提供し、情報化社会基盤の発展促進に貢献する
その他	次世代情報通信に係る技術・サービスや、ITの活用により成長が期待できる先進企業への投資を通じ、IoTなどによる生産性向上に貢献する

外部表彰

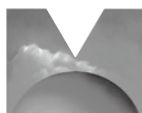
2016年4月から2017年3月までの主な外部表彰の結果を掲載します。

表彰名	主催	表彰結果
第57回 BCS賞	一般社団法人 日本建設業連合会	BCS賞・住田町新庁舎作業所
JAPAN WOODDESIGN AWARD2016	ウッドデザイン賞運営事務局	JAPAN WOODDESIGN AWARD2016 ソーシャルデザイン部門：安曇野市庁舎作業所

【CSR報告書2017データブック表紙について】

当社は、障がいのある方々が創作するあたたかみのある作品を、カレンダーや社内報などのデザインに使用し、この活動を通して彼らの自立を支援しています。この活動は、2017年で25年目を迎えました。

本年度のデータブックの表紙は、湯浅恵美子さんの作品「ひょうたんどんぶらこ〜おひさま」です。



M A E D A

シンボルマーク天空の地平線の意味

環境との調和

前田建設の頭文字である「M」の中に青空に浮かぶ緑の地球。

美しい地球の環境を敏感にとらえ、美しい人間生活に貢献しようとする姿勢を表現しています。

信頼のテクノロジー

カラーで精緻なグラフィック表現は、先進的なハイテクノロジーを象徴するとともに、安定性を持ちながらも天空に向かっていこうとする、大志を抱くイメージを持っています。

美的価値の尊重

従来のマークの域を超えた、リアルなグラフィック表現の採用には、建造物は勿論、その施工のプロセスでも美しくありたいとする願いが込められています。

本報告書について

印刷物製造作成にあたりCSR報告書においては、4,615kg-CO₂、またデータブックにおいては1,078kg-CO₂、合計で5,693kg-CO₂のCO₂を排出しています(1冊あたり約626g)。そこで、編集や製造工程で使用する電力14,000kWhに風力発電でつくられたグリーン電力を使用しています。

(CO₂排出量は、『Printing Goes Green』により算出)

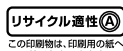
本印刷は、視認性、判読性に優れた書体であるユニバーサルデザインフォントを採用しています。

本報告書の制作にあたり、環境への配慮を行っています

80%再生紙



リサイクル対応印刷物



グリーン電力の使用



グリーンプリンティング



ライスインキ



お問い合わせ先

前田建設工業株式会社

CSR・環境部

TEL: 03-5276-5134(ダイヤルイン)

URL: <http://www.maeda.co.jp>

